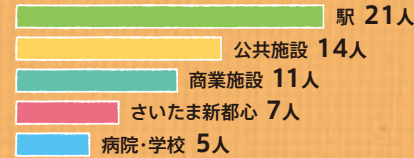


小学生 夏休みバリアフリー体験会 (さいたま新都心駅)

小学生たちが夏休みを利用して、「さいたま新都心ふれあいプラザ」主催の『バリアフリー体験会』に参加。「さいたま新都心バリアフリーまちづくりボランティア」の皆さんにお手伝いいただきながら、バリアフリー化が進んでいるさいたま新都心駅で車椅子や白杖を実際に体験することで、障がいのある方と接する際にどのようなことに配慮し、行動すればよいのかを考えてもらいました。

読者モニターさんにも聞きました!

さいたま市内で「バリアフリーができてい」と思う施設や場所は? (複数回答可)



「バリアフリー基本構想」では、駅周辺のバリアフリー整備を積極的に進めていることから、このように感じている市民の方が多いようです。また、「さいたま新都心」と具体名を挙げる方も多くいました。



実際に操作してみて、車椅子を動かすことの大変さが分かりました。



白杖と点字ブロックを頼りに一人で歩行。足を踏み出すのも怖い感じがします。



アイマスクをしたまま歩いているうちに、方向が分からなくなって不安になります。

まちあるき勉強会 (岩槻駅)

「バリアフリー基本構想」をもとに進められている整備の状況について、市民や関連団体の代表などが実際に足を運び、「利用者の目線」で確認する『まちあるき勉強会』。平成28年10月に重点整備地区の一つである岩槻駅周辺で実施され、出された意見は今後のより良いまちづくりに活かされています。

参加者からは、こんな意見が!

- 良い点**
 - 「東西自由通路は広くて、車椅子でも通りやすい。」
 - 「西口駅前に手すり付のベンチがあるのは助かる。」
- 気づいた点**
 - 「トイレにステッキ掛けがあると、なお良いと思う。」
 - 「案内板は見やすかったが、点字の表記も入れてはどうか。」



西口駅前広場は、整備途中ではあるものの、歩道が広く平坦になり、とても歩きやすくなっていました。



終了後は確認した結果をグループごとにまとめ、良い点や気づいた点を発表しました。



わずかな段差のように見えても、車椅子に乗ってみると高さを感じます。

市民協働のまちづくり

体験し、考え、次へ活かす

みんなで理解し、支え合うバリアフリーのまちづくり

バリアフリーに対応したまちづくりには、市民の皆さんの理解や協力が不可欠。そこで、みんなの力で「より良いまち」にしていくための取り組みを紹介します。



さいたま市バリアフリー基本方針

基本理念を中心に大きく3つの目標を定め、バリアフリー化の実現に向けたさまざまな取り組みを進めています。

みんなの参加が重要!

基本理念 みんなが創って育てるバリアフリーのまち・さいたま市

目標1 計画的なバリアフリー化施設の整備を進めます

鉄道駅や駅前広場、周辺道路、路外駐車場、都市公園、建築物等でのバリアフリー化の推進にあたっては、段差解消を優先した施設整備を一体的・重点的に行います。また、バリアフリー化施設の機能を継続させるための維持管理を行います。

目標2 バリアフリーをみんなで理解し支えあう体制をつくります

思いやりを尊重し、互いに理解しあう気持ちを育み、コミュニケーションを図るとともに、これらのことを次の世代に伝えていきます。

目標3 バリアフリー化施設や取り組みをみんなに伝えます

バリアフリー化施設や最寄の公共施設等までの情報発信や情報案内機能等の充実を図ります。

より良いまちにしていきたくからバリアフリーへの理解を深める取り組みを進めています。

さいたま市では、「さいたま市バリアフリー基本構想」を策定し、平成32年度を目標として、市内のバリアフリー化に取り組んでいます。目標の実現には、計画的な整備や広く知っていただくための周知も大切ですが、市民の皆さんに「バリアフリー」についての理解を深めていただくことも重要なポイント。一人ひとりが体験などを通じ、さまざまな立場の人の思いや行動を知り、考え、お互いを思いやる気持ちを持つことは、「こころのバリアフリー」につながるからです。

また、「バリアフリー基本構想」に基づいて整備された施設の使いやすさを、高齢者や障がいのある方など、さまざまな立場の人が実際にチェックし、そこから出た意見や感想を今後の整備へと活かしていく「スパイラルアップ」を行うことも、より良いまちづくりへとつながります。バリアフリー化が進んだ「みんなに優しいまち」は、市民の皆さんの協力があるからこそ実現するものなのです。